

避難のポイント

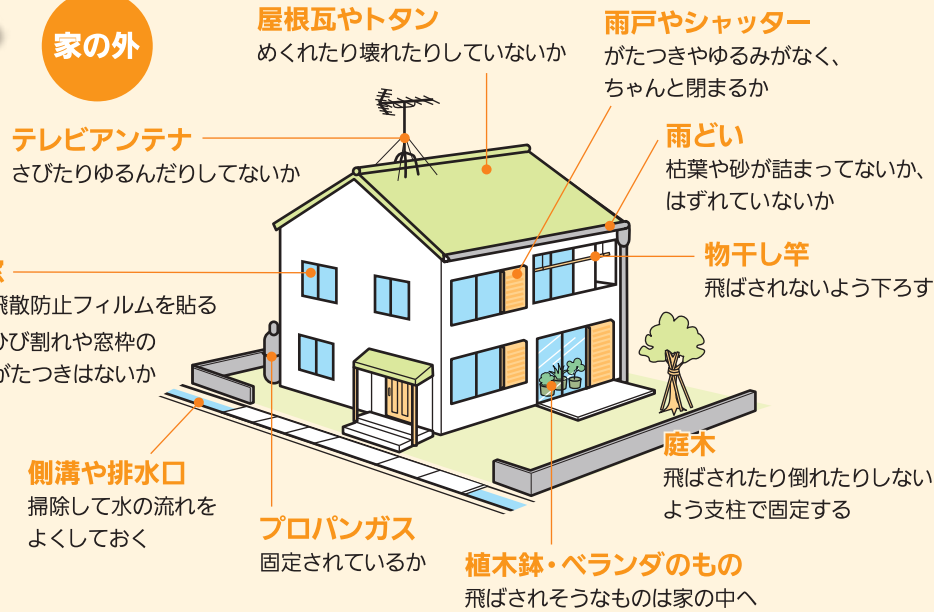
避難前から避難時のポイントをまとめました。ご自宅にあてはめて、チェックしましょう。

直前の準備(警戒レベル1・2)

家の外

- 懐中電灯、携帯ラジオ、貴重品、水や非常食などの非常持出品を確認する。(37ページ参照)
- 雨戸を閉めたり、飛来物が入り込んでくるのを防ぐためカーテンやブラインドを閉める。
- 貴重品、動かせる家具・家電製品など、水に浸かると困るものを高い所に移動させる。
- 停電に備えて、携帯電話やパソコンを充電する。

家の外



いざ、避難するとき(警戒レベル3・4)

A 台風の情報をキャッチ

高潮は主に台風の接近によって生じる現象なので、台風の勢力や進路、潮位の状況、満潮時間などの情報を、テレビやラジオ、インターネットなどで確認し、正しい情報に基づいて行動しましょう。



B 大雨による河川の氾濫や土砂災害などにも注意

高潮は津波のように河川を遡り、堤防を越えて氾濫することもあります。また、台風による大雨は、土砂災害や洪水を引き起こすこともあるので、注意しましょう。



C 地下やアンダーパスは危険

地下室や地下街、アンダーパス(鉄道などの下をくぐる道路)は地上よりも早く浸水します。また、浸水が始まると、水圧の影響で脱出できなくなることがあるので、地下空間にいる場合は、早めに避難しましょう。

D 車での避難は要注意

車での避難は、交通渋滞を招いたり、緊急車両の通行妨害になったりするので、基本歩いて避難しましょう。冠水した道路は見た目で水深がわからず、車で進入すると予想以上に深いことがあり、車が浮いたり、エンジンに水が入って、動かなくなることがあります。万が一、車で避難する場合は安全なルートを通して早めに避難しましょう。



風の強さの予報用語とその度合い

やや強い風

平均風速
10m/s以上
15m/s未満

風に向かって歩きにくい。傘がさせない。高速運転中では横風に流される感覚。



強い風

平均風速
15m/s以上
20m/s未満

風に向かって歩けなくなり転倒する人も。看板やトタン板がはずれ始める。



非常に強い風

平均風速
20m/s以上
25m/s未満

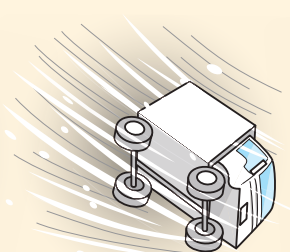
何かにつかまらないうちに立っていられない。飛来物で負傷のおそれ。通常速度の運転が困難。



非常に強い風

平均風速
25m/s以上
30m/s未満

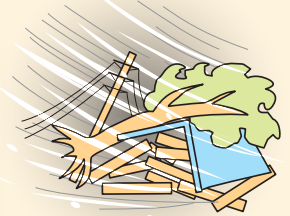
屋外での行動が極めて危険。走行中のトラックが横転する。



猛烈な風

平均風速
30m/s以上

多くの樹木が倒れる。ブロック塀や電柱、街灯、住家で倒壊するものがある。



E 動きやすい格好、2人以上で避難

動きやすい格好をし、複数人で避難すること。浸水している時は、水路(側溝)やマンホールに注意しましょう。



F 「高いところ」「頑丈な建物」

安全なのは高いところや、鉄筋コンクリート造などの頑丈な建物の高層階です。すでにそのような場所にいるなら、無理して外に出ず、そこで待機することも考えましょう。また、逃げ遅れたら無理をせずに、高い所で救助を待ちましょう。

コラム 「自分は大丈夫」なんてことはない!

早めの避難と「正常性バイアス」

早めの避難のポイントは次の3つ。

- ①夜間の行動は危険なので明るいうちに避難
- ②浸水などで道路が通れなくなることも考え、大雨になる前に避難
- ③時間のかかる子どもや高齢者などは早めに避難

避難を呼びかけても、「自分は大丈夫」「まだ大丈夫」と深刻な状況を過小評価する人がいます。これは「正常性バイアス」と呼ばれる心理傾向で、逃げ遅れる原因。避難の呼び掛けがあったらすぐに行動しましょう。



G 隣近所の協力が大切

避難する時は、近所の人たちと声を掛け合い、高齢者等、支援が必要な人の手助けをするなど、地域で協力しましょう。

A 台風

水位が高くなっている満潮時は、特に要注意!

浸水の深さがひざの高さを超えると避難が難しくなるので、浸水する前に早めの行動を!

天候が悪くなってから海の様子を見に行かない。警報・注意報が解除されるまで、海岸や河川に近づかない。

B 河川からの越流による氾濫

C

アンダーパス

地下



E

台風による強風のなかでは屋外での移動が難しくなるので、その前に早めに避難を!

F

高い所へ

F 頑丈な建物

G

車椅子の介助
階段では3人が協力して、上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように。